第１０８号
令和２年３月号

まな net

教科研究センター便り

高知県教育センター
教科研究センター

【第１０８号　目次】

・特集　この一年間を振り返って
・創立１０周年記念行事
・お知らせ
・速報

特集　この一年間を振り返って

本年度もたくさんの方に教科研究センターをご利用いただき、本当にありがとうございました。県内４か所にある教科研究センターの取組やアドバイザーとしての一年間を振り返っての感想や意見などをまとめ、今月の特集にしました。

本部教科研究センター

今年度も資料や挿絵、写真などの教材提示資料の作成依頼が多くありました。先生方から授業のねらいや児童生徒の実態を確認しながら、拡大コピーの大きさや提示の仕方などを一緒になって考えて教材作成をするように心がけました。「紙媒体の教材の提示は板書として残るので、課題を見つけたり、情報を関連付けたり、整理したりするのに大変役に立ちます。」「低学年の児童は、拡大資料があると集中の度合いが違います。」などの声が寄せられました。また、これまでの教材を再活用している学校からは、「以前に作成した教材を学校・学年で整理・保管をしたり、ラミネートをしたりして大事に使っています。」の嬉しい声も聞かせていただきました。授業づくりや学級づくりにすぐに取り入れることができる指導技術や実践例、事例集などの書籍や雑誌の閲覧・貸し出しが多くあり、好評でした。

昨年度と同様、若い先生方や教員をめざす大学生や社会人の方の来室が多く、学習指導案や教科書の閲覧、教員採用の問い合わせや相談などがありました。「ほかの先生と学校のことや児童・生徒の相談が気軽にできてとても安心できます。」「いつも明るく迎えていただき、帰るときには、授業をがんばろうという気持ちになります。」などの感想がありました。来室者のちょっとした困りごとや悩みごと、相談ごとも聞かせていただいています。

授業づくりの基礎・基本に関する講座を４回実施しました。講義のあとは、「授業づくりのスタンダード」を意識した学習指導案作りの演習をしたり、校種や教員経験の異なるグループで板書計画を作成したり、発問や説明・指示の仕方を考えたりしました。授業者や子ども役、授業参観者に分かれての模擬授業は、それぞれの立場で授業を評価することができ、大変役に立ったようです。「初めて参加しましたが、講義も分かりやすく、初めて会う先生方と学び合い、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。」「教育の現場で働くことが初めてです。知らないことがたくさんあり、このような研修を通して自分の力にしていきたいです。」などの感想があり、講座が少しでもお役に立てたことを嬉しく思いました。

新年度は、小学校の教科書が新しくなります。教材作成のお手伝いをするアドバイザーにも新たな対応と取組が求められ、気持ちが引き締まります。教材作成の質の向上はもちろん、先生方のご要望やご相談に丁寧に応え、「教科研究センターに来てよかった。相談してよかった！」と思っていただけるように努めていきたいと思います。

西部教科研究センター

１年間を振り返ってみると、多くの先生方に書籍、機器を利用した教材づくりやミーティングスペースで実施した研修会等で当センターを活用していただきました。今回はアドバイザーの視点ではなく、利用者の視点で１年間を振り返りたいと考えて簡単なアンケートを実施しました。大変お忙しい中、17 名の先生方から貴重なご意見をいただいたので、まとめてみました。

・今年から小学校勤務となり、中学校勤務時にはほとんど活用しなかった教科書の拡大コピーが、児童への指導に大変役立ちました。拡大機の利用のみしていましたが、書籍の活用もすすめてくださり、指導に生かすことができました。

・来年度の外国語科（５．６年）の情報を知らせてもらい、とてもありがたかったです。外国語の指導においては、視覚に訴える資料や教材があることがとても重要で児童の理解に役立つと思いました。

・教科研究センターのおかげで、授業の教材提示に役立たせていただくことができています。支援の必要な子どもには、拡大コピーはとても有効です。教科書のどこを見ればいいのかすぐに分かります。また、導入の段階から提示することで、視覚支援の必要な児童生徒は、学習に取り組みやすくなります。

・拡大コピーを利用すると、書画カメラで拡大して提示するより、児童が直接拡大した資料に記入できるので楽しく授業ができます。また、学習の足跡を教室に一定期間提示して常に振り返りができるので良いです。

・時計やはかり、鍵盤ハーモニカの拡大コピーなど、自分で準備するには難しいものも置いてあり、提示方法も教えていただけるので参考にさせてもらっています。

・アドバイザーの方々が、いつも親切にあたたかく接してくださるので、とても利用しやすく感じています。落ち込んでいても、少しお話を聞いてもらって元気が出たこともありました。19 時 15 分まで利用できるので助かっています。

利用者の先生方のコメントから現在の教育現場の課題が見えてきました。①小学校への教科としての外国語（英語）の導入と新たな教科書への対応、②児童・生徒数の減少に伴う複式学級の増加とその対応、③現場の先生方の多忙感への対応（声がけ等）。私たちアドバイザーもこれらの点に配慮しながら来年度も対応していきたいと思います。多くの先生方のご利用をお待ちしています。

中部教科研究センター

本年度４月～12 月の利用状況を調べてみました。

・利用者数は、689 人で、研修室の利用が 11 件でした。

・月別利用者数は、①６月、②９月、③４月の順に多く、曜日別の利用率は、月曜日 17.0%、火曜日 14.7%、木曜日 18.1%、金曜日 12.8%、土曜日 37.4%でした。

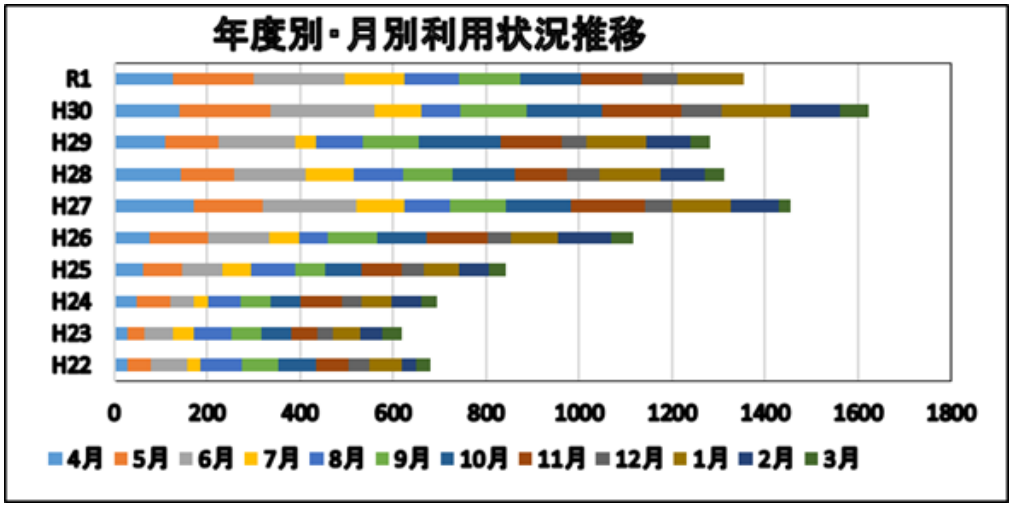
・書籍や雑誌の貸出し数は 90 件でした。そのうち、月刊（季刊）誌バックナンバーについては、①小一・小二教育技術、②授業力＆学級経営力、③総合教育技術、③道徳教育、⑤国語、⑤初等教育資料・・・の順に多かったです。

本年度も年間を通して、教材提示資料の拡大印刷（拡大コピー）など教材作成の利用が多く見られました。拡大コピーした教材で授業を展開すると、視覚支援ができて理解が深まり、話し合い活動なども活発になり感謝しているというお話がありました。初めて利用する教員や教育実習中の大学生などからは、「機器の使い方が全く分からず不安でしたが、とても親切に教えてくださったおかげで、無事教材作成ができました。ありがとうございました。」といった感想がありました。講師の先生からは、「いつもここに来るとがんばろうと思えます。作っていただいた教材を使って、２学期もがんばります。」といった感想も寄せられ、少しのアドバイスでも感謝してもらい、嬉しく感じました。

教育雑誌や学習指導案など情報収集の利用も一定数あるので、現場の教員の求めに応じた資料更新が大切だと思いました。教材作成のお手伝いに加えて、利用者の先生方とのお話の中で仕事のストレスや小さな悩みの聞き手になれる場面が時々ありました。今後も、人と人とのつながりや関わりを意識した教科研究センターの在り方を模索していきたいと考えています。

東部教科研究センター

当センターは恵まれた環境で、書籍・教科書などの閲覧ができ、今年度も教材作成を主として多くの先生方に活用していただきました。



来室者の利用延べ人数を年度ごとに見ると、開所当初の平成22年度から着実に利用者を伸ばし続けてきました。これまでの最高利用者数となった昨年度の1623人には及びませんが、昨年より１割ほど減の1500人近い実績になりそうです。これは昨年度の道徳、英語の教科化に伴う掲示物や資料作成数が一定落ち着いたこと、東部管内小中学校への電子黒板やプロジェクターの設置、デジタル教科書等の導入がなされたこと等が理由として考えられます。しかし、電子黒板による指導資料の活用と併せ、単元によっては、これまでと同じように紙媒体での拡大資料が児童の理解を深める手立てや振り返りの指導に使えるという声もあって、特に低・中学年の算数や国語の資料作成依頼が多くありました。また音楽の譜面や体育の副読本の拡大資料も年間を通しコンスタントにあり、先生方が芸術・技能教科の指導にも力を注いでいることが伝わってきました。

昨年度と同じく初任者の先生方の来室も多く、初任者担当の先生と一緒にミーティングスペースで教材研究をし、私たちも資料作成の相談を受けることがあります。２年次となった先生方が継続してセンターを利用してくれるのもその実践が活かされているものと感じます。

「ありがとうございます。またがんばります！」という初任の先生、「いつもありがとうございます。おかげで子ども達もわかりやすく楽しく授業を受けることができています。」等のベテランの先生からのうれしい感想、「家庭科で研究授業をするのですが、この資料をどのように活用したらいいでしょうか…」、「学習指導案の書き方で、参考になるものは何かありませんか…」等の相談も寄せられました。

次年度は小学校の採択教科書も替わり、新たな取組が求められる年になることも想定されます。今後もより一層、利用者のニーズに応えられる、来てよかった！と笑顔になっていただける教科研究センターとなるように努めていきたいと思います。

これからも、皆様の授業研究や教科研究活動のお役に立てる教科研究センターの充実をめざして、努力してまいります。来年度もぜひ教科研究センターをご利用ください。皆様のご来室をお持ちしています。

教科研究センター創立 10 周年記念行事について

２月 19 日（水）に高知会館で“教科研究センター創立 10 周年記念行事”を開催しました。この 10 年間に携わっていただいた指導アドバイザーの先生方や教育委員会事務局関係者、元教育センター職員の皆さまにも出席いただき、終始和やかに、会が進行しました。濱田久美子教育センター所長の挨拶、長岡幹泰教育次長のご祝辞、東川美知子アドバイザーのスピーチの一部を紹介します。

★濱田久美子教育センター所長挨拶より

本日はご多用の中、教科研究センター10 周年記念行事に多くの皆様にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

お懐かしい皆様にこのようにお会いして、教科研究センターの 10 周年を共にお祝いできますこと、私にとって最良の喜びでございます。

教科研究センターは、皆様のご存じの通り、平成 21 年に「すべての子どもたちに質の高い授業を提供するため、教員等の自主的な授業研究・教科研究活動を支援する施設」として、高知県教育センター本館内に開設しました。そしてその翌年２月には東部・中部・西部の３支部を開室、以来、教員の学びを支える施設として現在に至っています。

開設当初より、校長先生等、教員ＯＢを指導アドバイザーとしてお願いしますとともに、教育関係の書籍や雑誌、学習指導案や実践事例等を多数収集し、カラーコピー機や拡大機を配置するなど、授業づくりや学級経営について教員等への支援を行ってまいりました。

お陰様で、利用者は、設立から現在まで５万人を超えており、多くの先生方に認知される場となっています。また、設立当初より、教育センター内外の様々な方々にご協力いただきながら、年 10 回程度の講座も開催し、年々充実したものとなっています。

平成 23 年からは、「学びのネットワークを広げたい」という願いを込めて、教科研究センター便り「まなｎｅｔ」を毎月発行しており、令和元年７月には記念すべき 100 号を達成いたしました。現在は 106 号まで、ホームページ上に掲載しています。

本日配付いたしましたリーフレットには、創刊号で私が執筆いたしました「創刊にあたって」が掲載されております。改めて、この当時の思いも含めまして大変感慨深いものがございます。

このような教科研究センターの取組は、歴代の指導アドバイザーの皆様、そして子どもたちのために頑張る先生方によって発展してきたものと考えています。心から感謝申し上げます。

さて、近年、教科研究センターでは、教材作成の相談のみならず、学校での困りごとを指導アドバイザーの先生方に相談したり、自主的な勉強会での利用や、先輩教員が若年教員を連れて教科研究センターで教材研究をしているなど、うれしいエピソードが聞こえてきます。

学習指導要領が改訂され、教育はまた新たな時代を迎えようとしています。教科研究センターでは、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、さらに学校現場のニーズに応えるべく、充実・発展に努めてまいります。そして、利用された方々が、優れた見識を得、また、学びのネットワークを広げながら、高知県の教育を支えていってくれることを願っています。

最後に、本日お集まりいただきました皆様に、改めまして厚く御礼申し上げますとともに、今後とも教科研究センターへのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。

★長岡幹泰教育次長のご祝辞より

記憶が正しければ、この教科研究センターは前の教育委員長であった宮地彌典委員長が、他県の教育センターを視察した際に、教員が自主的・主体的に学ぶ場の必要を感じられ、この創設を提案されたのがきっかけであったと思います。そして、奇しくも平成 19 年度の全国学力調査の結果、本県の子どもたちの学力定着状況の厳しさが明白となり、尾﨑前知事から教育の質の向上、授業改善が急務であると指摘され、教育委員会事務局全体に危機感と緊張感が走っていたときであったと思います。

本県の学力向上、教員の資質・指導力の向上の象徴として設立された教科研究センターも 10 年の歴史を重ねられたこと、本当におめでとうございます。同時に、ご苦労様でした。

さて、創立から２年、平成 23 年の５月に発行された「まなｎｅｔ」。当時の教育センター所長は、奇しくも現濱田所長さんで、この第１号に寄稿されています。ルイ・アラゴンという作家の言葉「学ぶとは心に誠実に刻むこと、教えるとはともに希望を語ること」を紹介し、「教師は子どもにとって、最も身近な学習モデルであり、学ぶ喜びを教え導く役目がある」、だから、本県の教員は、しっかりと教科研究センター等を活用して学習姿勢を作り、学ぶ喜びを体得しなさいと説いています。

反省です。私自身、希望を語っていたか、誠実に生きてきたか、誠にもって反省です。

そして、平成 24 年８月発行の 15 号。この中に、利用者の声として、次のようなものがあります。「いつもは学校の白黒拡大コピーですが、こちらのカラーで掲示すると、児童から『豪華や』等と歓声が上がる。集中が長続きしない児童でも、大きな画面で掲示することができたので、迫力があり、集中するようになる。子どもたちが注意深く見るようになった。」

26 年３月。東部教科研究センター便りには、このようなものがあります。「授業の教具作成はもちろん、導入、展開、終末にかけての児童の思考の流れなど、私とは違う視点でアドバイスをいただき、大変勉強になった。教科研究センターに通うことで、私は自分の授業が少し変わってきたと感じている。」

これは平成 24 年度のものからいって、大分意味合いが違ってきています。

さらに、平成 30 年３月号。「ミーティングスペースを定期的に自主研修として利用している教員グループがある。また、中堅、ベテランの先生が若い先生と一緒に訪れ、教材提示の仕方や図書資料の活用について、紹介したり、学習をしたりしている。」

これは、また一つ次元を異にした言葉です。

私は、これからの教員は、時代の変化に受け身的に反応するのではなく、積極的・能動的に対応することが必要で、そのためには主体的に学習するアクティブラーナーにならなければならないと考えています。そして、そのような成長の場所や機会をきちんと用意することが我々の大きな役割の一つであると思います。

先ほどの利用者の声を見ると、教科研究センターの意味合いが年々高まってきていることがわかります。拡大コピーによる教材提供場所から、アドバイザーの指導をいただきながら学習する場所へ。さらに、教員が主体的・協働的に学習する集団に成長する機関へと進化してきています。素晴らしいことです。

この変化は、指導経験豊かな歴代のアドバイザーの先生方、また、創設から今日に至るまで管理運営等にご尽力された教育センターの担当職員の皆さん方など、関係の皆様のご努力によるものと心から感謝するものです。

皆様方の引き続いてのご支援とご協力を賜りまして、今後も教科研究センターが充実し、高知の子どもたちに意欲的に関わる教職員を支援し、育てていく場として広がっていくことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

★東川美知子本部統括アドバイザーより

教科研究センター創立10周年、誠におめでとうございます。皆様方と一緒に、一つの節目である10周年記念をお祝いできますことを大変うれしく思いますとともに、心よりお礼を申し上げます。

10年間の歩みの一部分を振り返らせていただきたいと思います。

ご存じのように教科研究センターは、県内に４か所あります。この10年の間、皆様のご尽力のおかげで、それぞれのセンターが地域の教育事情や学校の実状に応じた、特色ある教科研究センターとしての歩みを続けてくることができました。簡単に、ご紹介させていただきます。

西部教科研究センターは、学校の状況に応じたきめ細かで丁寧な取組をされ、教材作成や新しい教育の情報を提供するセンターとして、先生方にとって、大変心強い存在となっています。

中部教科研究センターは、利用者さんの悩みや思いに耳を傾け、つながりやかかわりを大事にした運営をされています。また、先生方が機器を上手に活用されているとお聞きしています。

東部教科研究センターは、教材作成や効果的な活用の仕方、学習指導案など一人一人の相談に丁寧に対応されています。「来てよかった！」と笑顔で帰られる先生方の顔が浮かびます。

本部教科研究センターは、先生方の要望をお聞きしながら、授業で効率よく活用できる教材の開発をしてきました。本部という性格上、教育図書や雑誌、学習指導案や教育実践事例を検索しやすいように分類をし、また、教育雑誌の特集の案内も発信しています。

利用者さんにも変化がありました。ここ数年は、現職の先生方だけでなく、大学生や社会人の方の利用が増えています。指導教員の先生が初任者や２年次の先生方と一緒に来室されることもあります。利用目的も、教材作成に加えて学習指導案や教科書の閲覧などが増え、教員採用についての問い合わせや相談もあります。教育雑誌や図書の貸し出しもしています。

教科研究センターの基礎講座も少しずつ変化してきました。授業づくり講座の名称で呼ばれていたころは、受講者の多くが現職や講師の先生方でした。現在は、従来の基礎講座に、ＮＩＥなどの専門講座が加わり、教科研究センター講座となりました。４月採用予定の大学生や講師の方、教員をめざす社会人の方の受講が増え、県外からの受講者も少なくありません。講座の内容は、受講者の皆さんの校種や教員の経験年数を考慮するとともに、前年度のアンケートをもとに、毎年少しずつ改善を試みています。「大学で習う機会のなかった実践を伴う講義と演習、模擬授業が大変ためになりました。来年度、教壇に立つ者として学んだことをぜひ生かしたいと思いました。」「校種や経験年数の違うたくさんの方との協議は、大変勉強になり刺激を受けました。」などの声をいただいています。

西山学校支援部長さんが、「まなｎｅｔ」創刊100号の中で、「教科研究センターは先生方を支援する施設ですが、実際は、子どもたちのためにと頑張る先生方によって、これまで育てていただいたようにも思います。」と書かれています。私もその通りだと、思います。来室される方のニーズは、校種や教科、職種の違い、経験年数などにより多様です。授業のねらいと子どもの実態をお聞きしながら、先生方のニーズに少しでも応えられるよう、一緒になって考えて教材を作成しますが、帰られた後、「あの教材、あの資料でよかったのかな？」と反省することが多々あります。そういった意味では、センターを利用される皆様に、アドバイザーも育てていただいているように思います。

さて、４月からは、新小学校学習指導要領が全面実施となります。中学校、高等学校も続きます。小学校では、プログラミング教育や外国語教育が始まり、教科書も新しくなります。 教材の内容や年間の配置、資料や写真などが変わります。先生方はもちろん、教材づくりのお手伝いをするアドバイザーにも、新たな取組と対応が求められているところです。学習指導案の収集や更新、新しい教育の情報の提供・発信も必要です。

これからも子どもたちのために頑張る先生方のために、教科研究センターが役立っていくことができるように、努めていきたいと思います。引き続き、皆様方のご指導とご支援、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、教科研究センターが今後ますます発展していくことを心から願いまして、10周年記念のご挨拶といたします。

お知らせ

※3月20日（金）～4月1日（水）閉室します。

※ ４月２日（木）より開室時間が変更になります。

月火・木金曜日の開室時間　１５：３０～１９：１５です。
なお、土曜日、夏季休業中の開室時間は変更ありません。

速　報

教科研究センター（本部・東部・中部・西部）

２月の利用者状況**350名**

◆◇ご利用ありがとうございました◇◆

教科研究センター（本部）	高知県教育センター２階（高知市大津乙 181）	TEL/FAX	088-866-3903
東部教科研究センター	安芸総合庁舎４階（安芸市矢ノ丸１－４－36）	TEL/FAX	0887-34-8051
中部教科研究センター	中部教育事務所１階（吾川郡いの町枝川 2410－７）	TEL/FAX	088-893-6597
西部教科研究センター	幡多総合庁舎３階（四万十市中村山手通 19）	TEL/FAX	0880-35-6251

教科研究センターホームページアドレス　http://www.kochinet.ed.jp/studycenter

こちらからいつでもまな net を閲覧できます。